



THE Y'S MEN'S CLUB OF TAKARAZUKA

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIS EVERY RIGHT"

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL OF Y'S MEN'S CLUBS CHARTERED MAY 22,1988

宝塚ワイズメンズクラブ 2020年6月会報 第378号

主 題 ・ 標 語

国際会長(IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

主 題 より良い明日のために今日を築く Building today for a better tomorrow

標 語 さあ動こう On the MOVE!

アジア太平洋地域会長(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)

主 題 アクション! Action!

標 語 誇りと喜びをもって With pride and Pleasure

西日本区理事(RD) 戸所岩雄(彦根シャトー)

主 題 風となれ、光となれ

副 題 ころろ豊かにあるために、輝くために

六甲部長 柏原佳子(芦屋)

主 題 スピンネーカーの帆に風を集めて

宝塚クラブ会長 多胡葉子

主 題 ときめきライフをワイズ活動で!

今月のテーマ: 評価と引継ぎ

定めたゴールの達成度を評価し
次期に繋がる形で正確に引継ぎしよう

戸所岩雄 理事 (彦根シャトー)

2020年6月例会(総会)

日 時 : 2020年6月10日(水)14時~16時

場 所 : 宝塚市立西公民館パーティールーム

会 費 : なし(お茶は各自持参)

ドライバー 石田副会長、若林書記

開会点鐘 多胡会長

ワイズソング

聖書朗読 石田副会長

祈 禱 若林書記

ゲスト・ビジター紹介 多胡会長

総 会

・2019年度活動報告 各委員会委員長

・神戸YMCA緊急支援に関する件

・その他

クラブメンバー近況報告

YMCA報告

誕生日のお祝い クラブ会長

閉会点鐘 多胡会長

2019~2020 役員	会長 多胡 葉子 直前会 青柳 美知子 副会長 石田 由美子 書記 若林 成幸 会計 小林 康男 堀江 裕一 吉田 明 会計監査 加藤 光信 今田 和子 連絡主事 谷川 尚 メネット連絡 福田素子 六甲部地域・環境主査 青柳 美知子
誕生日	長尾ひろみ(1日) 若林成幸(3日) 青柳美知子(5日) 小林貴美子(17日)
(休会) 5 月 実 績	例会出席者数 0名 在籍会員数 21名 出席会員数 0名 出席率 0% メイクアップ(内数) 0名 メネット 0名 コメント・孫メット 0名、 ゲスト・ビジター 0名 例会充足率 0%
	BFポイント 5月 0円 累 計 25,716円 にここにBOX 5月 0円 累 計 45,000円 ファンド(物品販売) 0円 累 計 32,300円

聖句

イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。

(マルコ福音書 6:31)

随想

新型コロナウイルス感染拡大防止策としてステイホームが要請され、「新しい生活様式」が言われています。改めて自らの生活を見直す機会になったという方も多いのではないのでしょうか。私もこれをきっかけに、普段の生活の何が不可欠で、何が余計なことなのか、考えました。そして、忙しく外へ向かっていた意識を、静かに休んで内側に向ける必要を感じました。今は経済が回らないと成り立たない社会ですから、皆がそういう内的生活をしはじめたら困る方々もいるのは確かなのですが、やはり今一度、自らの生活様式を見直したいと思いました。

コロナ禍になる以前から、多忙な現代人向けにマインドフルネスや瞑想などが推奨されていて、人々がそうした内的な休息を求めていることは明らかでした。しかし、実際にそれを自分の生活の中で実現し、確保できている人はどれくらいいたのでしょうか。あくまで忙しく働いて成果を上げることが主眼で、休息はそのための付属品に過ぎませんから、たいてい願望だけで終わっていたのではないかと思います。

結局わたしたちは、誰か権威ある存在から「休みなさい」と言われたい限り、休めないのではないのでしょうか。権威ある誰かが、そう言ってくれれば、気兼ねなく休むことができる。それなしに、自己判断で休もうとしても、今一つ休めない。さぼってると思われたいかと人の目が気になる。いやこの間にあれをやればもっと前に進めるのに、と自分の業績が気になる。形だけ休んでいるようでも、業績主義というこの世の掟からは解放されませんから、本当の意味で休みになっていない。

神さまが「しばらく休むがよい！」と命じられる。思えば何という恵みでしょうか。「安息日」の掟の本来の意味もそういうものだったのでしょ。今回の出来事も、神さまが「休みなさい」と命じられた「安息日」ととらえて、改めて「新しい生活様式」を求めたいと思います。

金田 俊郎

5月第二例会を ZOOM で

会長 多胡葉子

新型コロナウイルスによる緊急非常事態宣言が1ヶ月延長されたために宝塚市の公共施設も5月31日まで閉館となった。

クラブ例会も集まってするミーティングは不可能となり、3月以来メンバーとの顔を合わせての交流はできなくなってしまった。メールではクラブ、六甲部、西日本区、国際などからの情報は転送などによるメンバー間の交流、共有はしっかりできているとは思いますが、やはり顔をみない交流は寂しい。

このIT化の時代に私達もオンラインでの交流をと役員同士でまずLINEビデオを試し、会議を実施。パソコン、iPad、iPhoneの出来るメンバーは21人の内19人。Zoomミーティングのテストを3回に分け試み全員の参加が可能と判明。参加できないお二人の方へは内容の結果を報告することで了解を得、初めてのZOOMによる第二例会を5月20日午後7時から開催した。ホストは会長の多胡が務め全員を招待。はたして成功するかと不安があったが、前もって参加を表明した全員が無事参加。四苦八苦しながらも1時間20分の間に次々と課題を協議し、無事終えることができた。

学生達がオンライン授業を受けている、またテレビなどでもテレビ会議、まさに我々もIT化時代に遅れることなく、このコロナの時期に新しい方法でのミーティングが開催できたことはとても嬉しいつながりであり、コロナからの思わぬプレゼントだったと思う。

しかしながら画面上での顔合わせでなく6月には一同に会して本来の例会が開催されることは最上の喜びであり、楽しみだ。

小さな地域奉仕

会長 多胡葉子

1) こども弁当に

4月30日にフランス在住の娘の友人のFacebookに掲載されていた「宝塚こども応援プロジェクトこども弁当のための支援」チラシ。宝塚地域で給食のない間に必要とされているこども達への支援をフランスからの逆輸入で知る。

2年前からワイズメネット事業として子供の貧困に寄り添う取り組みを勉強会で学び。各地域で支援もして来ていたことにつながる。

すぐに関係者に連絡を取り代表の方へつないでいただき、宝塚ワイズとしてできる支援を申し出た。

この宝塚こども応援プロジェクトは学校が休校で給食がないためにお昼が十分に食べられないこども達を対象に立ち上げられたプロジェクト。

お弁当を500円で事業者さんが作ってくださる。そのお弁当を100円でこども達の手へ。私達の支援は15個分のお弁当代7,500円を30個分の15,000円を支援金として申し出た。7,500円のお弁当にはネーミングライツが進呈され宝塚クラブはそのネーミングを「わいわい弁当」とした。

2) 地域市民支え愛プロジェクト

一口1,000円(約3食分)を10口 10,000円の支援を提供

コロナウイルスのために学童保育のこども達に学校給食のない間(5/12~29)給食にかわり一食200円で提供。地域の飲食店の支援と協力に合わせての支援事業。

3) 土佐堀クラブの岡野泰和ワイズから提供を受けたマスク2箱(1,450枚×2)を一箱ずつ スペシャルオリンピックス兵庫と、はんしん自立のいえに寄贈

5月第2例会 Zoom 会議要旨

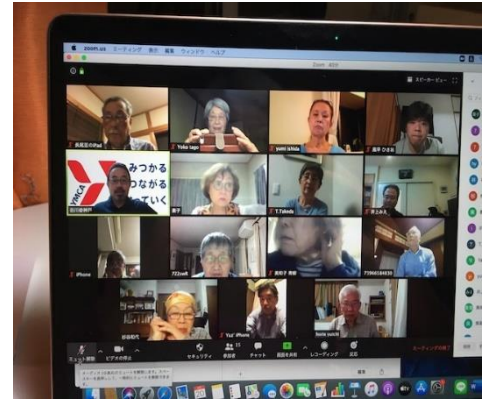
5月20日(水)午後7時～8時15分、クラブ初のビデオ会議を行った。多胡会長・青柳・石田・今田・井上夫妻・風早・小林・福田素・鯖尻・杉谷・武田・谷川・長尾・堀江・若林各メン及びゲスト岡野メンの合計17名が出席した。

1) 参加者の一言現況スピーチ(略)

2) 6月第一例会に関して

緊急事態宣言解除後の公民館の運営方針を確認した上で、次の通り例会を予定する。今週中に宝塚市の公民館利用ガイドライン(3密回避方法など)が発表される予定なので、運営の細部は役員会で協議する。

- ・日時 6月10日(水)午後6時30分～
- ・場所 宝塚市立西公民館 パーティー室(予定)
- ・内容 1年間の総括⇒各委員会の実績報告を5月末までに提出(若林宛、メールで)



3) Zoom ミーティングの活用に関して

参加できない方(欠席者…加藤・吉田・福田宏子・重松・西川メン)への情報伝達に配慮する。

4) 非常事態宣言中の宝塚ワイズの活動など

①オンラインを使ってのビデオ役員会を実施した

②地域への支援活動に関して

- ・学童の昼食弁当提供を支援するため、次の2件の活動に協力金を支出した。

地域市民支え愛プロジェクト 10,000円

宝塚子ども応援プロジェクト 15,000円

- ・岡野メンからマスク5000枚の提供申し出があり、これを有難く頂戴した。配布方法は会員が関係する福祉活動団体などから選び、後日、役員会で協議する。

5) 会計に関する報告

小林メンから年度末にあたり、未処理となっている地域支援団体への支出の確認と6月中旬に会計監査を行って貰うことが報告された。当期は概ね収支均衡の見込。

6) 六甲部報告

5/16 六甲部の次期会長のZoom会議が行われ、若林メンから要旨が報告された。

- ①コロナ禍、評議会を7/5(日)14時から開催、場所未定。出席者は各クラブ1～2名に限定
議案は2019年度収支報告、次期会長方針・事業計画・予算の承認程度の主要事項に限定。
- ②9月開催予定の部会は中止。
- ③西日本区費の減免を6/21区役員会で協議予定。六甲部費は徴収しない。
- ④クラブの事業計画を5/31までに提出。六甲部資料集として各クラブへ配布予定。

7) 6月号ブリテン

長尾メンから、コロナ禍での活動報告・聖書随想の人選・自由投稿についての依頼がなされた。

8) YMCA 報告

谷川メンから、コロナ禍のYMCA 事業活動の現状、5/25の総主事とワイズ会長の懇談会が予定されている旨報告があった。

9) 市民クリスマス

コロナ禍、市民クリスマス実施の可否判断を行うために、出演団体の意向調査を行うこととした。

5月 ZOOM 役員会議事要旨

日 時:2020.5.27(水)10:30~11:40

出席者:多胡、石田、長尾、小林、若林

議事要旨

1) 緊急事態宣言解除による6月10日の第一例会に関して

公民館利用者ガイドルールに沿って安全を期すこと、及び参加者の便宜を考慮して開始時刻を繰上げて行うことを決定した。健康に不安のある方、仕事などやむを得ない事情のため欠席される方のために、スマホでの視聴ができるように同時配信を行う予定。

日 時・場所:6月10日(水)午後2時~4時、宝塚市西公民館パーティールーム

会 費:なし(食事なし、お茶は各自持参)

内 容 : ①2019年度の活動報告と評価(各委員会報告)

②神戸 YMCA の緊急支援要請について

③その他



2) 神戸 YMCA 諸事業再開にあたって井上総主事からの支援要請について

5/25 六甲部長及び各クラブ会長が参加で Web 会議が開かれ、井上総主事から下記の支援要請があり、六甲部として全面的に協力することを約し、その具体的な方法は各クラブにおいて協議することとなった。

①六甲部に対する支援総額 400万円、支援の時期 6月末までに

1) 事業再開のためのインフラ整備 150万円

2) 神戸 YMCA 学生生活支援 150万円

3) 野外キャンプ事業再開のための備品 50万円

4) ウェルネス、幼少年事業再開のための備品費 50万円

②宝塚クラブの支援方針

事業再開に向けてインフラ整備・学生の生活支援等の緊急性があること、国から10万円の給付金があることを踏まえ、会員@平均3万円×21名=63万円の賛同を得ることとした。

なお、試算では、六甲部在籍会員数 約120名、総額360万円となるので、不足分は六甲部会計の剰余金からの支出を提案することとした。

3) 西日本区からのアンケート調査に関して

コロナ禍におけるクラブの実状に関するアンケートが配信された。多胡会長から提出してもらった。

4) 岡野メン提供のマスクに関しての寄付先に関して

岡野メンから多量のマスクの提供を受け、配布を希望する福祉団体等の申し出を待っていた。本日現在、スペシャル・オリムピックス兵庫、はんしん自立の家から要望があり、各1450枚ずつ送付することとした。



5) 小さな命のドアクラウドファンディングに関して

昨年10月例会の講師として招聘の「一般社団法人小さいのちのドア」(代表 永原郁子氏)からクラウドファンディング(総額1,000万円)の協力要請が届いた。クラブとしては、次年度に諸々の支援要請があることが想定されるので、事業計画・収支予算を策定した上で適当な協力を行うこととした。

6) その他

コロナ感染第2波が起きる懸念がある中、市民クリスマス・ジャガイモ販売の対応方針が話題になった。

①市民クリスマス…いのちの安全サイドに立ち原則的に中止。ただし、ポップンリンガーズや自立の家など、この催事を楽しみにしている友があることを覚え、次善の策を委員会で検討する。

②ジャガイモ…楽しみに待っている顧客があり、ファンド獲得のためにも昨年同様に実行する。

書記 若林成幸

ありがとう医療従事関係の皆さま

メンバー近況一言

吉田 明

ゴロゴロゴロゴロリ〜ン、又々ゴロゴロゴロゴロリ〜ン。
以上が私の毎日です。妻はイヤでしょうネ。ゴメンネ〜、本当に・・・

「チャンスの神様には前髪しかない」

重松えみり

まさに言い得て妙な表現です。チャンスが来たら逃さずにつかめ！というように言われますが、ビジネスでもプライベートでも人生はそんなに自分の都合通りにはならないもの。

たいてい自分の準備が間に合っていない時に、突然目の前にやって来ます。

目の前にやってきた”それ”がチャンスかどうかなんて分からない。何だかよく分からないけれど、掴みとって無我夢中で走ってみる。そして数か月・数年経ち振り返った時に、あの時の”あれ”がチャンスだったんだと初めて気付くものなのだと思います。

だから、少しでも「面白そう」「やってみたい」と感じた事には、たとえどんなに時間がなくても準備が整ってなくても今持てる100%のチカラでチャレンジをしていきたい。

もしかしたら全力で空振りをするかもしれないし、デッドボールを受けるかもしれない。

それでも、目の前にやってきた”それ”が新たなチャンスだと信じ、果敢に飛び込んできたいと思っています。

先が見通せないコロナ禍ではありますが、新たな世界へ移行していくタイミングだと信じ今できる事に集中し精一杯チャレンジを続けたいと思います。

新しいフラ教室「ケイキフラ」

石田 由美子

はんしん自立の家との関係で「さんだ子ども発達支援センター・かるがも園」で5月から園児さんにフラを教える事になりました。ケイキはハワイ語で子どもの事です。ここは就学前の障がいのある子ども達が保育や療育を受ける通園施設です。



第1回の5月28日は夏空に近い五月晴れ、最初のクラスは青空と緑の芝生に誘われて園庭で踊りました。先生方がネットで見つけた可愛いスカートやレイを身につけて園児さん達は何が始まったのかまだ理解出来ない状態。

次のクラスはもっと小さい仲間も加わって室内でやりました。事前に送っておいたケイキフラの動画をYoutubeで見たり先生方と一緒にお魚とりを踊っているとケイキ達の目の輝きがキラキラしてくるのがよく分かり感動です。

子ども達にほんものを教えて欲しいとはんしん自立の家の石田英子さんの依頼により手探り状態で始めた活動ですが「日常と違うもの」に触れ、カルチャーショックを実感する事でいい刺激になっていくのでは、と先生方と話し合いました。

帰る時数名のケイキ達が「アロハあ」と言っていていつまでもお見送りをしてくれて心温まるひと時でした。

「富士山噴火と南海トラフ地震」を読んで

若林成幸

COVID-19 緊急事態宣言のもと、外出自粛の合間に読んだ本の感想を記す。1995年阪神淡路大地震から25年、次に恐れられているのが「南海トラフ巨大地震」といわれているが、その発生確率について国は30年以内に70～80%と公表した。マスコミは一時センセーショナルに報じたが、自分が生きている間には先ず大丈夫と思い、危険性を実感するほどではなかった。

しかし、火山学・地球科学の専門家、京都大学の鎌田浩毅教授は、『いつごろ・どれくらい』を示さなければ市民も行政も準備できないと考え、著書「富士山噴火と南海トラフ」で「2030年±5年に必ず襲われ、被害は東日本大震災より一桁大きい」と警告している。

阪神大地震のような活断層のズレによる直下型地震の予知は難しいが、この地震は科学的な予測が可能な唯一の地震だという。さらに著書では、日本列島の地理的な特殊性を示し、東日本大震災後の火山噴火や火山性地震の頻発現象をとらえ富士山噴火も連動して発生すると警鐘をならしている。

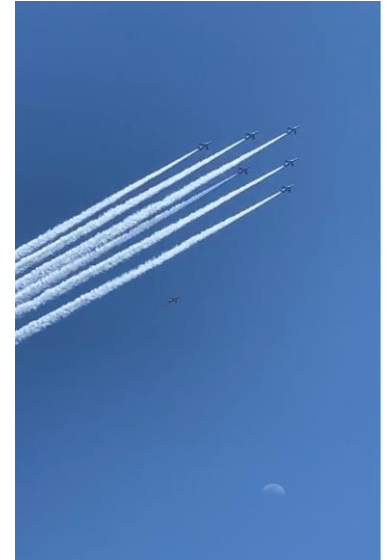
「想定外」が頻発する中で最速2025年と言われれば時間的余裕はない。「今から備えれば8割が助かる」との論旨は注目すべきだ。

医療従事者に感謝と敬意

長尾 亘

6月29(金)東京上空に航空自衛隊の「ブルーインパルス」が医療従事者に感謝と敬意を表す為に飛来したニュースが流れました。とたんに「こんな時期にかかる費用はいくらになるのでしょうか。医療機関や従事者の方々に経済的支援を手厚くした方が、よほど敬意と感謝が示せるように思うのですが」とツイートが出ました。私も一理有ると思います。しかし、「あべのマスク」と少し違うと思います。

私が「飛行機大好き人間」になったのは1999年6月アメリカにBF デリゲイトで行き、最終プログラムのハワイ地域大会に参加している時に偶然、米海軍の「ブルーエンジェルス」のアクロバット飛行を実際に見た事で、今でも目の奥に残っています。その時は目的も無く、訓練だったかも知れませんが、しかし今回は医療関係者、従事者の方々への感謝と敬意と、はっきりした目的が有って、感動を貰ったと思います。そして今回「ブルーインパルス」のアクロバット飛行を見た子供達には目に残ると共に、「コロナウィルス」で大変だった年であったと記憶も残るでしょう。



YMCA だより

緊急事態宣言は解除されましたが、まだまだ世界中では感染者が拡大している状況の中で、世界のYMCAは未曾有の事態のため、センターの閉鎖、キャンプやプログラムの中止、そして国や地域によってはスタッフの解雇をせざるを得ない状況に立たされつつも、世界中でYMCAが持っている数千ものコミュニティを維持するために、それぞれの役割と責任を果たそうとしています。

わたしたちは、健康についてのキャンペーン、食料や衛生器具の支給、移民や難民やホームレスへの支援、弱められている人へのカウンセリングなど社会心理的支援、オンラインでつながり祈りを合わすこと、それぞれの国や地域の中でできることから取り組みを行ってきました。

すでにご案内しているとおり、日本ではオンラインでの「YMCA共同の祈り」(次回は6月12日18時より)を行ったり、また海外からの留学生向けに食料の支給を行ったり、安全のために「#はなれていてもつながっている」キャンペーンを始めたりと、オンラインなどを駆使しつつつながりあいながらも弱められているところへの支援を行っています。

どのYMCAも経済的には厳しい状況に置かれてはいますが、コロナとともに生きる時代の中で、いじめや差別、偏見に打ち勝つ社会になるよう、地域に伴走し、ともに生きる歩みを行おうと、結束を強めていきます。

そうしたことへの実現のために、全国一斉の「YMCAポジティブネット募金～はなれていてもつながっている」キャンペーンを繰り広げていきます。地域社会の痛みに向け、課題を探し、解決に力を注ぎ、地域社会に必要なYMCAとしての存在を示していきます。この経験を生かして、新たな価値を創造する事を目指し、すべての事業・活動を通して、安全の徹底、つながりの回復・新生・、安心の創出に挑戦していきます。ぜひワイズの皆さんとYMCAが手を取り、新しい世界を創っていきましょう。

2019-2020 宝塚ワイズメンズクラブ 事業・特別事業

事業委員		(委員長)		特別		(委員長)		
	Yサ・ユース	武田 壽子	西川 勝久	事業委員	NGO 連絡協 議会	鮎尻 佳子	堀江 裕一	福家 清美
	地域・環境	青柳 美知子	風早 寿郎		じゃがいも	小林 康男	吉田 明	風早寿郎
	EMC	若林 成幸	鮎尻 佳子		市民クリスマ ス	若林 成幸	吉田 明	長尾 亘
	広報・ブリテン	長尾 亘	福家 清美		〃		石田由美子	多胡 葉子
	交流・ファンド	福田 宏子	石田由美子					